

平成23年度 第2回 地方独立行政法人東金九十九里地域医療センター評価委員会会議録

日 時 平成23年8月1日(月) 午後3時から午後4時48分まで

場 所 東金市役所 3階 第1委員会室

出席した委員

石渡 徹男	東金市議会議員
井上 肇	千葉県保健医療担当部長
氏原 強	千葉県病院局佐原病院事務局長
近藤 俊之	(社)全国社会保険協会連合会顧問
佐野 勇一	(株)千葉ぎん総合研究所経営コンサル第一部長
田畑 陽一郎	山武郡市医師会会長
樋口 幸一	公認会計士
松永 敏子	(社)千葉県看護協会会長
水田 宗子	学校法人城西大学理事長

(敬称略、五十音順)

欠席した委員

大矢 吉明	九十九里町議会議員
宮崎 勝	千葉大学医学部附属病院長

出席した関係者等

志賀 直温	東金市長
川島 伸也	九十九里町長
平澤 博之	理事長
事務局	東金市医療センター推進課 鶴岡参事、加藤主査補 地方独立行政法人東金九十九里地域医療センター 石原看護部長、原田事務部長、高宮参事、鶴岡課長、太田課長、 大池副課長、古川主査、戸田主査補、増田主査補、大塚主査補、 行木主任主事

会議概要

近藤委員長 挨拶
志賀東金市長 挨拶
平澤理事長 挨拶

議事

- (1) 平成22事業年度の業務実績に関する評価結果(案)について
- (2) 平成22年度財務諸表に対する意見について

その他

地方独立行政法人東金九十九里地域医療センター平成23年度年度計画について

開会(午後3時)

司会

本日は、お忙しい中ご出席を頂きまして、ありがとうございます。

ただいまから「平成23年度第2回地方独立行政法人東金九十九里地域医療センター評価委員会」を開催いたします。審議に先立ちまして、大矢委員、宮崎委員より欠席のご連絡をいただいております。そのほかの委員におかれましては、出席して頂いておりますことから、『地方独立行政法人東金九十九里地域医療センター評価委員会共同設置規約』第7条の規定に基づき、過半数の委員の出席により評価委員会が成立していることをご報告申し上げます。報道機関の写真撮影についてですが、傍聴要領に基づき予め委員長の許可を得ておりますことを併せてご報告申し上げます。これより次第に沿って会議を進めてまいります。

司会

先ず始めに、近藤委員長さんよりご挨拶をお願いします。

委員長

それでは開会にあたりまして、一言ご挨拶申し上げます。ただいま司会の方からお話がありましたとおり、第2回目の評価委員会でございます。皆様お忙しいところご参集頂きましてありがとうございます。議事につきましては、すでにお手元にありますように1点は22年度の業務実績評価及び財務諸表についてでございます。もう1点はその他としてございますが、地方独立行政法人東金九十九里地域医療センター23年度の年度計画ということでございますので、皆様方の忌憚のないご意見をいただければ幸いです。是非よろしく願いいたします。

司会

続きまして、東金市長よりご挨拶を申し上げます。

東金市長

本日は、大変お忙しい中、お暑い中、今年度第2回の評価委員会ということでお集まり頂きまして誠にありがとうございます。東金市と九十九里町を代表いたしまして私からご挨拶を申し上げます。この東金九十九里地域医療センターにつきましては皆様方の支援とご協力を頂き、平成26年4月の開院に向けまして、着実に事業が進んでおりますことをまず感謝申し上げるしだいでございます。先般、7月27日の千葉県地域医療再生本部会議に平澤理事長とともに委員として出席いたしました。この会議の中で、千葉県地域医療再生プログラムにおける山武長生夷隅医療圏の3次救急の強化策ということで、東金九十九里地域医療センターの救急医療に対する補助4億6,500万円が、医療機器や看護師の確保、ドクターヘリ或いは救急ヘリ等のヘリポート建設ということで、合意を頂いたところでございます。県9月補正ということでお考え頂いているということで伺っておりまして、今年度中にその一部が補正という形で計上されることになろうかと思っております。これにより医療センターの整備環境は益々充実強化されてきたことをご報告申し上げさせて頂きたいと思っております。それでは、本日の議案につきましてご審議の程、よろしく願い申し上げましてご挨拶とさせて頂きます。

司会

次に、平澤理事長よりご挨拶をお願いいたします。

理事長

地方独立行政法人理事長の平澤でございます。本日は、お暑い中、当独立行政法人の評価委員会にお集まり頂き大変ありがとうございます。今、市長が申し上げましたように全体の計画としては、順調に進捗しておりまして、平成24年4月から着任予定の私以外の医師の第1陣をこの秋から全国公募で定める手続きを今、取りつつあります。また、看護師に関しましては、これが非常に大変なんです。私も最大の努力

をいたしまして、独立行政法人の看護部長の石原に同行して、他の事務方と一緒に鹿児島や北海道或いは東京の看護師養成機関に参りまして、医療センターに来て頂けるようお願いしているところでございますので、必ずや必要な数を揃えられると思っております。また、設計に関しましては、基本設計が終わりまして、実施設計をしているところでございますが、後ほど模型図や画像によって委員の皆様にも現時点での計画が固まっている部分をご覧頂きたいと思っております。私としては、機能的な建物が出来上がったのではないかなと思っております。今後、入札の手続きをとりまして、建築に移る訳ですが、また、ご指導頂いて透明性を保ってスムーズに入札、そして業者を選定して、建設に取り掛かりたいと思っております。また、市長が申し上げましたとおり、地域医療再生基金に関しましても、県当局の多大なご配慮を頂きまして、その好意を十分に活用しまして、この医療センターが立派にスタートするように持っていきたいと思っております。今日もまた厳正に評価して頂き、適切にご指導頂いて、この医療センターがスムーズにオープンして地域の皆さんの期待に答えられるよう、機能を発揮できるよう皆様のご指導をお願いしてご挨拶といたします。今日はありがとうございます。

司会 これより議事に入りますが、議事の進行は評価委員会共同設置規約第7条第1項の規定に基づき、近藤委員長さんをお願いいたします。

委員長 それでは、早速、議事に入りたいと思っております。

 前回5月30日の評価委員会におきまして、平成22事業年度の業務実績及び平成22年度財務諸表に対するご意見を頂いたところでございます。今回は皆さんに頂いたご意見を踏まえて事務局で作成しました議案第1号といたしまして、平成22事業年度の業務実績に対する評価結果の案を提示して頂く、同時に財務諸表に対する意見についてもまとめて頂いておりますので、まず、それをご説明頂きまして、皆さんに改めてご意見を頂きたいと思っております。それでは、内容について事務局から説明をお願いします。

事務局（市） 別紙1「平成22事業年度の業務実績に関する評価結果（案）」の説明

委員長 前回ご欠席の委員の方もいらっしゃるかと思いますので、確認を振り返りまして、資料1でございますが、資料1の年度計画評価表ということで、前回、独立行政法人の自己評価が提出されまして、それで、皆様方からこの項目ごとにご意見を頂いたと記憶しております。その中で、基本設計について、ちょうど震災の後でしたが、大変良く設計されているという説明があったことに対して自己評価3よりも十分に達している4という項目と、もう1点は、土地の取得にあたりまして、予定された金額よりも安く取得できているということで、これを4にしたかどうかということで皆さんの合意を頂いたと思っております。これが基礎になって評価をされたと思っておりますが、他にご意見があったかどうか確認頂けますでしょうか。よろしいでしょうか。この2点について4という評価を頂いたと記憶しております。その他3以外にこれを下げるという意見は無かったと思っておりますが、よろしいでしょうか。これが一つの評価表ということで、これをもとに評価結果というものを作って頂いた訳ですが、全体の構成から、評価の考え方につきましては、2月9日の評価委員会でも同意を頂いた訳でございまして、

本日は法人の理事の方、職員の方もいらっしゃるのので、ここでご意見を聴取することができるといふことだと思います。全体評価は個別の評価の積み上げによりできておりまして、個別の評価は2・3ページにありますように、第1から第10でございますが、第5につきましては財務諸表は別に評価でございますし、第6から第9は該当事項は無く、第10につきましては、すでに第1のところでは評価をしている又は積立金の処分については該当が無いので評価しないということでもありますので、この第1から第4の評価の積み上げにより全体評価がされているという結果になっておりますので、第1から第4について改めて皆様のご意見を頂きたいと思っております。次の4ページからでございますが、ここから各項目別にまとめておりますので、皆様のご意見を頂きたいと思っておりますが、まず、4ページの項目別評価の第1としまして、住民に対して提供するその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためとすべき措置に関する項目別評価でここに①から⑤までありますが、このように記載されておりますが、何かご意見ご質問ございますでしょうか。

平澤理事長のご挨拶にありましたとおり、人材確保というところで大変これから重要になってくるということもございます、課題としまして、千葉大学医学部との協定書を締結できたということと、もうひとつは、看護師養成機関との奨学金支給規程が整えられたということもございます。

委員

人材確保に関して1点ご質問をいたします。これまで、人材確保というと基本的には医師・看護師をいかに確保するかということに関係者の関心があり、それに関してここでしかるべき準備が進んでいることを我々も高く評価し、心付けを強く思っています。質問は医療機関を運営する際に必要な、看護師以外の職種に関しては、基本的には特段の手立てをすることなく確保できる見通しでいるのか。それともこれ以外のさまざまな職種についてもやはり人材確保の手立てを今後とっていかなければいけないというお考えなのか、医師・看護師以外の職種に関する考え方について伺いできればと思います。

委員長

今年度23年度も含めてお答え頂くことになるかと思っております。よろしく申し上げます。

理事長

現時点で、コメディカルの人たちの中で薬剤師のトップ、中央検査部の検査技師のトップ、放射線技師のトップが千葉大との関連の元に内定しております。というのは、実施設計をする上でその方達の意見を入れて、確認して頂いたあかつきには、使いやすいような施設にする必要がございましたので、トップの人については、3人早めに決定して、すでにワーキンググループに出席頂いておりますし、その方たちは医療センターに着任することに関しては千葉大学側の各々の部長、教授の了承を得てございます。したがって、そのうちのその下に何人かが来る、例えばレントゲン技師は最終的には11人になる予定でございますが、ピラミッド型に構成して、そのうちの何人かは千葉大からレントゲンの放射線技師長と一緒にこちらに着任することに関して向こうの放射線技師長、放射線科の教授との間で了承は成り立っておりますので、今、申し上げた少なくとも3つの職種に関しまして、薬剤師、レントゲン技師、検査技師に関してはスムーズに行くものと思っております。

委員長 看護師について何かご質問ありますか。看護師確保の制度設計の準備ができたということで評価としては3になっていると思いますが、何かありますか。

委員 私たちは看護学部の設立が順調に進んでいるところでございます。しかし、卒業生を出すのを待ってはられない状況にあると思いますので、その間の看護師さんたちの確保、先ほど、平澤先生もおっしゃったように探していらっしゃるかと思いますが、私たちがこの九十九里地域医療センターができることにあたって看護学部を作っている訳ですから、これからも連携を緊密にして、そして良き看護師を送れるようにしたいと思っております。

委員長 他にこの第1につきまして、医療センターの機能、施設整備、設備整備、人材確保、医師会等との関係ということで、前回もいずれもご説明頂いたと思いますが、総合的にこれに関しては評価が3ということでございます。

委員 私たちは文科省に申請を出しまして、認可がはつきりおきるまで、まだ、少し時間があるのですけれども、ご意見を伺い順調に行っていると思っております。そして、入試募集もしております。そして、大変反響が多いのですけれども、やはり地域に定着してくれるそういうことを非常に心配しておりますので、是非、ここで広報ということを書いていらいやいますけれどもそこを十分にさせて頂きたいと思っております。全国からの問い合わせ、千葉県、東京都からの問い合わせが多いので、東京の方に卒業後、行ってしまうといけないと思っておりますので、広報活動をしっかりして頂くことによって、この病院を目指して学生達が入ってきてくれたらいいと思っておりますのでよろしくお願いいたします。

委員長 この第1についてはよろしいですか。ご質問、ご意見ございますでしょうか。

委員 ⑤ですけれども、理事長の平澤先生が私共の医師会に参りまして、まず、入会していただきました。その後のいろいろな会議、懇話会に積極的に出席して頂き非常にいいムードですので、これについては、非常に良かったなと思っております。報告いたします。

委員長 前回は緊密な関係ができていたというご報告があったかと思っております。よろしいでしょうか。よろしければ第1は評価結果3ということでもよろしいでしょうか。それでは次に第2の業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するためとるべき措置に関する項目別評価ということで、ここに①から③までございますが、これについて何かご質問ご意見ございますでしょうか。ここは実際には②・③では制度を作ったということですが、会計制度ですが、委員何かございますでしょうか。会計制度については特段問題ないとうことで考えてよろしいでしょうか。

委員 ただいまのご指摘の点につきましては、特に問題ないと判断しております。

委員長 他にありますか。第2についてはよろしいでしょうか。第2についても結果3予定どおり実施しているという評価結果3ということでもよろしいでしょうか。ではそうさせていただきます。

次の第3番目は財務内容の改善に関する目標を達成するためにとるべき措置ということでございまして、ここでは2つの項目になっておりまして、健全な経営基盤の確立ということと、それから、支出の適正化ということでございますが、これについても制度設計、また、方針を取りまとめたということになっているかと思っておりますが、

何かご意見ご質問ございますでしょうか。ご異議がなければ、この評価の3ということにしたいと思いますが、よろしいでしょうか。

それでは、第4番のその他業務運営に関する重要事項を達成するためにとるべき措置でございますが、ここは、3項目でございます。実施スケジュールの確立ということで、今後の人事、財務、用地取得、実施設計等のスケジュールの確立ということでございます。②が財政負担、③が地域に対する広報ということでございまして、先ほどの委員から、地域だけでなく、もう少し広くというご意見がありました。これについて何か、ご質問、ご意見ございますでしょうか。よろしいでしょうか。なければここでの評価結果を3ということにしたいと思います。そうしますと、前の2ページ、3ページ戻って頂きますと、全体評価の基盤となります、大きな4つの第1番から第4番までについては、すべて評価結果が3ということでございまして、第5から第10については先ほど申し上げたとおりでございまして、よろしいかと思っております。それから、災害拠点病院としての設計の4、また、予定の土地の予定額取得4ということとは前回皆様からご意見を頂きご了解頂いたものとしまして、この記載をあらためて確認したいと思いますが、よろしいでしょうか。ありがとうございました。そうしますと全体評価はBでございますが、先ほどのお話でそれぞれの項目で皆さんこの評価結果案で合意を頂きますと、全体評価というのはS・A・B・C・D・Eということで、評価結果B、数字に直しますと3ということになります。これについては何かご意見ございますでしょうか。個々は全部3でございますので、同じ結果になると思っております。よろしいでしょうか。ありがとうございます。そうしますと、この第1号議案の評価結果につきましては、事務局で前回の意見を踏まえて作成頂きましたこの文章で、全体評価がB、個別の各評価についても3ということで、皆さんご了解頂けますでしょうか。ありがとうございます。それでは、原案どおり、ご承認頂いたということにいたします。

それでは、第2号議案になりますが、第2号議案は平成22年度の財務諸表に対する意見ということになります。これにつきましては、前回の評価委員会におきましては、内容への質問はありましたが、特段の何か新たな付け加えの意見はございませんでした。ただ、その後、事務局に何かありましたらご意見を下さいということでございますから、事務局で何かありましたでしょうか。

事務局（市）
委員長

特にございません。

それでは、皆様方からご意見が無いということであれば、地方独立法人法第34条第3項に基づく評価委員会の意見としては、承認すべき旨、設立団体に回答したいと思っております。よろしいでしょうか。ありがとうございました。以上を持ちまして、議案の1、議案の2ということで、ご承認頂いたのですが、評価結果書及び財務諸表への意見につきましては、議会に報告する必要がございます。今後の資料作成で一部字句の整理が事務局等で必要ということになりましたら私に相談をして、大きな変更が無いことにつきましては、ご一任頂きたいと思っております。よろしいでしょうか。ありがとうございます。以上で議題としては終了でございますが、その他ということで、まず、本年度23年度の年度計画についてご報告頂きたいと思っております。

事務局（独法） 地方独立行政法人東金九十九里地域医療センター平成23年度年度計画について報告。

委員長 この計画というのが理事会で承認されて、必ずしも評価委員会ではこの計画について、議論することはありませんが、しかしながら今度はこの計画がどのように実行されたかという評価となりますと評価委員会が評価をする仕組みになっていますので、それであればせっかくご説明いただいたので23年度計画でございますが、ここで何かもう少し皆さんからアドバイスやこういうところにもう少し力を入れて頂きたいということがありましたら、ご発言頂きますと来年度のこの計画実施の評価のところで大変役に立つのではないかと思います。ここでも先ほどの10番目まである訳ですが、大きくは4つまでですが、それぞれ何か簡単に何かどのへんまで実行する予定であるとか、こんなことはどうかということがありましたらご意見を頂ければと思います。まず第1についてでございますが、第1が非常に重要なところで、1ページから2ページについて、何かご質問ご意見ございますか。

委員 人材確保のところですが、まず、看護師の宿舎ですとか、保育所の設置というところで、全体的に看護師、薬剤師そういう人達の働く環境ということを考えて頂きたい。給与制度でありますとか、人事制度でありますとかどういう形でプロモーションがされているのか。持続的にここで働きたい、将来へのステップアップというようなこと、研修のようなことを全体的に考えながらの人事制度であって頂けるとありがたいということと、もうひとつ人材確保という立場からではなくて、看護師さんの育成や薬剤師の育成という教育実習というのが、最も大きな要素になってまいります。病院での実習というのがほとんどその方達がそこで就職したいということの一番大きな決め手になります。そうしますと、実習に関しての設備ですとか、いろいろな医師の先生方とのコミュニケーションができる余裕があると大変良いと思いますし、是非病院でも人材育成にもっと加担していただき、人材確保と一緒にやるという姿勢で考えて頂けると大変ありがたいと思います。

委員長 この後に設計の話もあると思いますが、基本設計でもフローごとに教育及び研修室があると思います。前段のご意見でございますが、人件費関連の給与制度を今後、キャリアアップを含め、なんらかの思想を入れて設計して欲しいというご意見だと思いますが、事務局でお答えするところがあればお願いします。また、具体的な人事制度をここで議論することは難しいと思いますが、考え方としては、今のようなことを踏まえて頂きたいという要望だと思います。第1についての1番の問題はいかに実施設計をするかというところでございます。そのために開発行為の許可を得る、建築確認をとるといったところが最大のところでございますし、改めて外来部門を中心としたユニバーサルデザインというような具体的なことも書かれていると思います。

委員 資料3の1ページ目、第1の1番目、医療センターの医療機能というところに関して、確認の意味も込めて伺います。この医療センターの医療機能というところを読むと救急医療は1次から3次までになります。もうひとつは4疾病4事業を担うということですが、言葉を換えて言うとフルラインで急性期医療は基本的には担っていきまますという位置付けだと理解します。他方、千葉県を見渡すと9つある2次医療圏の中

核的な医療施設で、こうした機能を担っている病院と今から我々が準備する東金九十九里地域医療センターを比較すると、その外形的な規模は若干違います。この東金九十九里地域医療センターは病床数314床からフルオープン時で医師の数が56人、それに対して通常2次医療圏の中核となっているのが、ベッド数にして500床から1,000床、医師の数にして二桁というところではなく、概ね100人から300人というところもございます。ですから、通常、2次医療圏の中核となって救急も1次から3次まで、4疾病4事業全てやりますということですが、実際にやっている医療施設と比べると外形的にはこの東金九十九里医療センターというのはやや小ぶりな施設となります。そうした中で、ここに書いてあることを読むとフルラインで他の2次医療圏の中核施設と同じことをやりますと読めるのですが、そのように読んでいいのか。あるいは他の医療圏の中核的な医療施設よりも病床数にしても医師の数にしても少し小さめということを見ると、はたして機能に少し違いがあるのか。この書きぶりからは読み取れないので、そうしたところをお聞かせいただきたい。また、もう少し掘り下げて言うと、救急でない待機的な医療、がんや糖尿病も担うと書いてありますが、こうしたところまで314床フルオープン時、常勤56名で担うべきなのか、この病院ができるそもそもの住民からの要望である救急医療に特化すべきなのか、こうした病床或いは医師の数の規模を踏まえて、ここに書いてあることは他の2次医療圏の基幹病院と全く同じなのか、少し違うのかそのあたりをご説明頂ければと思います。

理事長

ご質問にお答えしたいと思うのですが、まず、振り返ってみると、私が着任した時には病床数は県の指導のもとに決まっておりました。314床であります。その中で東金病院が担っている機能を引き継ぐようにということと、この区域の医療圏が救急医療、急性期医療の空白地だからそれを担うようにというのが2大命題であったと理解しております。そういうことを踏まえましていろいろ計画を練りあげてきたのですが、その中で県の指導もございまして、4疾病4事業というのもキーワードが出てきて、そちらのほうもできる範囲でやりなさいということがありましたので、今日このような診療内容に練り上がってきたというのが、正しい解釈の仕方だと思います。今、井上委員がおっしゃいましたように他の医療圏の中核病院と比べて確かにベッド数が少のうございます。そういう中で何にプライオリティーを置くかと言えばやはり、がんの治療というのが救急に比べまして時間的な余裕が少しある訳です、がんの手術を今日しなければいけないという訳ではなくて、救急の患者さんをその場で治療しなければ申すまでもなく、治療成績に大きな影響を与える訳でございますので我々としては急性期、救急医療に軸足を置いて、そして、その上に立って、314床のわりあい小ぶりな病院の中でできる範囲の一般の中核病院としての役も担っていきたいと思っております。ただ、例えば小児外科に関しても県のこども病院と近こうございますし、がんに関しましても千葉大学の附属病院とわりあい近こうございますので、時間的な余裕がある程度あるような疾病に関しては他の医療圏にある病院と十分関連を持って、できる範囲でやっていきたいと思っております。それで、今のところこれが順調に行って、経営的にもそういうことがゆるされるのならばやがて他の医療圏の中核病院と同じよ

うな規模に拡大できればと個人的には思いますが、現時点では314床の病床をフルに使って、プライオリティーとしては、急性疾患、救急医療に軸足を置いてその上に立ってできる範囲で中核病院としての役を果たしていきたいと思っております。

委員

人材確保の件でお聞きしたいと思いますが、ドクターの件で臨床教育システムというシステムを千葉大学と提携をして、それを応用した医師の派遣システムをこれから平澤先生中心に大学と協定してシステムを作っていくのだろうと思います。先ほど、平澤先生のご挨拶の中で全国公募をしていくということで、平成26年度オープンというと、もう今年度から準備をして、24年、25年の2年間の中でオープン時には最低でも30人ぐらいのドクターは先生の構想にはあるとは思いますが、20から30人のドクターを一旦は千葉大学のほうに在籍をするというイメージで派遣システムを考えるのか、各科でも18科から20科ぐらいの科があると思えますけれども、全部の科を大学のほうで認知（一度受け入れ）をして、そこからドクターの派遣をするというのか、イメージがつかめていないのでもし計画があればお伺いしたいのですが。

理事長

基本的には医療センターで働いてもらう各科の診療科のコアメンバーは大学の職員の称号を持って、大学の称号を付与された上で医療センターに派遣されて働くという形になると思います。今、そのスキーマを構築しつつあるのですが、教授の称号を特認教授にしようかということにしたい固まりつつあるのですが、基本的には大学の教授というのは全国公募をすることになっております。結果的には千葉大の中から来て頂けるという場合が圧倒的に多いと思えますが、教授の称号を付与するためには全国公募をしなければいけないということがございますので全国公募という言葉を用いました。実際的には先ほど申し上げました、来年の4月に来て頂く方を選任する作業をこの秋口から始めるのですが、外科の教授職ということになると思いますが、呼称は外科の特認教授となるかもしれませんが、その人を募集するのに一応全国の医療機関に公募をかけます。ただ、実際問題としては、他のところからきて頂けるかどうかわかりませんが、千葉大の中から手を挙げてくださるという予定の方がおりますので、みんなで公正に選考した上でその方に着任頂けるということになると思えますし、そういうことが万が一うまくいかなければ、例えば、追加で千葉大から出てくれる人がいないという時には全国公募をして、医療センターで働いてくださる方を選定して、その方に千葉大特認教授という称号あるいは特認准教授という称号を付与した上で医療センターに来て頂くということになっております。したがって、医療センターで働いてくださる方で、今、千葉大にいる方は別にして全国公募で例えば鹿児島大学から着任するという人が着任の前に千葉大学でトレーニングをして馴染むというようなことはあまり想定しておりません。着任して選考されて就職することが千葉大に着任ということが決まりましたらそれと同時にうちに来ていただくという形になるかと思えます。ただ、チームワークというものもございまして、私としては出来る限り、今、千葉大学の附属病院で働いていらっしゃる方、或いは関連病院で働いていらっしゃる方に来て頂きたいと思っておりますが、その他の可能性も否定はできないと思えます。

委員

その時に全国公募をして、職員を集める訳ですけれども、準備室というのか、その待機場所はそれぞれ今までいた大学で例えば26年の3月まではそこに在籍をして頂いて、突然動いて頂くのか、それとも、1年、2年前から独法の職員として千葉大学かどこかの病院で準備をしていただくのか。どんなイメージなのですか。

理事長

コアメンバーつまり外科、内科、救急のトップに関しましては、平成25年4月、つまり開院の1年前に着任して頂くことになっておりますが、その人達は開院の準備、器具を揃えて頂くというようなことをやって頂くのだと思います。その方達以外の一般の部長職教授、それからその下で働いていく方達に関しては平成26年の1月頃に着任していただき、3カ月ぐらいで病院に慣れて頂いて、中を整えて26年の4月に走って頂くと思っております。したがって、イメージとして、例えば早々とかかなりの数の医師をプールして、その医師をどこかに派遣してトレーニングをして馴染むというようなことをやるということは予算の関係もございまして、考えてはおりません。ですから、一方ではフルオープンではなくて、3年かけて段階的にオープンする中でこの病院の中でそういうことをやっていこうということを含んで段階的なオープンということも考えているところでございます。

委員長

他にその他、第2・第3・第4についても何かございますか。

委員

看護師等のコメディカルの確保についてですが、4ページのスケジュールの中に記載の看護師養成機関等の訪問は、千葉県内では、ほとんどの看護師等養成校が学生の囲い込みをして、他へ出さないという状況があります。大学の場合は少し異なるとは思いますが、大学生を対象に学校訪問しても難しい気がします。すでにご存知だと思いますが、東京、神奈川、埼玉、千葉、この周辺はみんな看護師不足できりきりしていますので、外へ出さない為にどうしたらいいかとそれぞれが真剣に考えている。そういうこともあって、当協会が年に1回開催している合同就職説明会も、今年は現役の看護学生はほとんど来ませんでした。急遽、高校生を対象に看護師を目指してもらおうという戦略に切り替え対応したのですが、それだけ厳しい状況があります。そこに来た看護学生は何を見て来たかというホームページです。もう少しホームページを活用した求人方法を取り入れることと、大学のどこをターゲットにしていいたら有効なのかを工夫してほしいこと、採用後の教育が大事になってきますが、いわゆる地域新聞等を使って広いエリアに募集広告を出し、潜在看護師の確保を積極的に進めるとか、従来と違ったやり方をしていってほしい。例えば、当強化に設置のナースセンターに登録する場合でも、医療機関の売りになるような面がよく見えるような情報を合わせて登録をするなど、学生や求職者がそれを見て判断する訳ですので、PRの内容を工夫して、目につくような戦略を是非やって頂きたい。

理事長

そういうことは私共もすでに着手してやっているつもりでございまして。そういうプロフェッショナルな会社がいくつかございまして、パンフレットをつくることとホームページを立ち上げることを連動して一緒にやってくれる会社を何社か見積もりを出してもらい、その中から選びまして、今、看護師募集のために特化したパンフレットを作っております。今ゲラ刷りを見ているところですが、できあがりますので、それを配りたいと思いますし、東金九十九里地域医療センターのホームページから看護

師募集のためのホームページのリンクを張りまして、そこに入ることができるようになっております。ただ、おっしゃるように、我々にとって、悲しいことに、東金九十九里地域医療センターの存在そのものを知らない人がまだ、圧倒的多数ですので、ですから、そこにたどり着かないと我々のところを見ていただけないので、その看護師を確保するための会社というのを、結構費用がかかるのですが、それを最大限利用していきたいと思います。私も何回かお会いしたんですけど、かなりプロフェッショナルな方達で看護師養成学校の生徒さんが見て魅力を感じるようなパンフレットを今、仕上げていますので、そういうものをまた武器に全国を回りたいと思っております。それから、専門学校の学生はたぶん補助金の関係等で縛りがございまして、ある程度の数は地元就職させなければ、その養成機関の補助金の額が減らされるといような縛りがあるのでなかなか難しい面があると思うんですが、それとて100%ということではありませんので、その何%か県外に出てもいいような人たちに対してはアタックしていきたいと思っております。おっしゃるとおり、看護師確保は非常に難しい面がございまして、特に千葉県では難しく、私もこの医療センターの成否を左右する今や看護師が一番大きな因子かなというような認識を持つに至っております。このことに関しては看護部長の石原に追加で答えて頂きたいと思っております。

看護部長

先ほど、理事長からのお話がありましたように全国の訪問を少しずつやっておりますけれども、大学を中心としたところを訪問活動させて頂いております。あとは、この近辺で将来の医療を担う方達とういことで、高校に向けて訪問活動しておりまして、開院に間に合わないまでもこの地域の医療者を増やそうという活動に力をいれております。今回、東金市と九十九里町にお願いいたしまして、本日8月1日付け広報でこの近隣の方達、学生さんやそのご家族を含めて広報活動いたしましたけれども、幸いなことに、問い合わせがあつたり、直接訪ねてきて頂いたりということがありましたので、やっぱり知られなくては何も話が始まらないということから、もう少し広報活動に力を入れてやっていかないと確保に結び付かないかなという感じはいたしております。ただ、私共のセンターの性格上、救急・急性期を中心にとすることでやはり大変な仕事なのですけれども、若いナース達が働きたいという環境がこの地域に不足していたということを感じておりますので、そこは本当にセンターの機能が若いナース達の魅力になってこの地域に看護師が集まってくるようなそういうような予感もたくさんではないにしてもございますので、その辺をこれからも謳っていきながら活動を進めて行きたいと思っております。

委員長

個人的にこういうのがあるのかなというのが、奨学金なんですけれども、今、学生でほしい1年生の時に看護学校にしても大学にしても奨学金が出ると思います。再来年の開院ですと、例えば今2年生ですとか、今1年生、途中からでも奨学金の受給は可能でしょうか。つまり、他の学校は今の時期になりますと4月5月6月ぐらいで締め切りをしており、医療センターは今、募集をしているので、学年途中の生徒に対して、ホームページ等で募集をしているのですか。

理事長

奨学金を貸与する期間というのは1年から4年までです。ですから、今4年生の方が今日医療センターに来てくださり、奨学金を貰いたいとおっしゃれば、4月に遡っ

て今年1年分を差し上げるというようなことも考えております。ですから、1年だけ奨学金を貰って医療センターに来てもらうことも可能ですし、4年間貰って来てくださることも可能なようなシステムになっています。その違いは何かというと、医療センターで働いて頂く拘束する期間が1年なら1年、4年なら4年という違いがあるということでございます。

委員長

たぶん他のところは皆さん今の時期ですと現実的には募集を終わっています。医療センターはこれから、随時募集と言っていいかわかりませんが、募集をしており、例えば家庭の状況が変わって、奨学金を受給したいという人も出てきたり、場合によってはこの辺の出身の人でちょっと離れたところに行っている人が、先ほど地方紙というお話がありましたけれども、広報活動により奨学金を受給できる、ということが周知できれば、医療センターに来るといようなこともあるのかなと思います。

理事長

あると思います。それで、我々も名前を知らなければいけないということもありまして、例えば先般 JR 大網駅の駅長が管理しているいくつかの駅舎に広告を出してもらおうという許可を受けましたし、乗降客が多い JR 千葉駅で、1枚でも張ってそれで見ただけというようにすることも可能かなということで、そのことも検討しているところであります。

委員長

医師はなんとか目途がつくにしても、看護師はまだまだ大変だと思いますので、ご努力をご期待しております。他にいかがでございましょうか。第2・第3・第4について今年度計画について、よろしいですか。それではここにあります平成23年度年度計画について是非達成を期待して、また来年評価をさせて頂きたいと思います。続きまして、その他ということで事務局で何か考えていらっしゃるでしょうか。

事務局（独法）

実施設計等、今後の予定について報告。基本設計の内容について、模型とプロジェクターを使用し報告。

委員長

それでは、本日の予定案件は終了しました。ご協力ありがとうございました。

司会

慎重なる審議ありがとうございました。以上で第2回評価委員会を閉会といたします。ありがとうございました。